



誕生！「屋久島ファンクラブ_福岡」

11月6日(金)「屋久島ファンクラブ_福岡」の発足会が福岡市内で開催されました。

この会は、北部九州地域での屋久島関連イベントへの協力や親睦を兼ねて、屋久島を側面から支援しようとする方々の集いの会です。

そもそも福岡在住で当財団ファンクラブ会員(大坪氏)が発案、呼びかけを行い、これに賛同したやる気いっばいの7名でスタートしました。

イベント協力はもちろんのこと、屋久島関連情報紙の発行や定例会・懇親会、屋久島旅行等盛りだくさんの活動予定です。

屋久島大好き人間の集まりで、個性豊か。強力なサポーターとなってくれることとします。

北部九州地区にお知り合い等いらっしゃいましたら、ぜひお勧めください。

【連絡取り次ぎ先】

(財)屋久島環境文化財団
Tel.42-2911



↑発足会の様子

自然体験セミナー報告 11/13~15

南の島の秋探し



↑麦生区散策の様子

自然体験セミナーでは、島の自然を守り伝えてきた人々の暮らしにもスポットを当てています。今回の麦生区散策では「屋久島一の美男子」とも言われるえびす様や村づくりについて、地元の方々には話を頂きました。

楽しそうに語る麦生区の方皆さんから、参加者も元気を貰ったようです。

アイランダー-2009



↑募金贈呈式の様子

11月22日-23日東京で国内60の島々が集まり開催されました。

当財団も屋久島町と一緒に、特産品の試食、観光PRなどのお手伝いをしました。

また、寄付された方々に財団の書籍やグッズをお配りし、集まったお金は全て屋久島山岳部保全募金として屋久島町に寄付しました。



↑調理の様子

とへ見け料食え理か換。た劍理加名ま。すて会林にてや食て係内 た座土で間。のの普屋学郷べ、業のこ。一料、保11月。なんもた理材たをら会試。にの者の“当。の連及久ぶ土ら屋者宿の を理「健26日。なり有出いのをいメ、で食。取調15指食日。り携課島こ料れ久を泊講。し義れな供り「ユ学、の。組実がの推、み習郷下進か。まに土、員ご。講たの心れ域にだ加見。座い意がたの加料者交

た。にの者の“当。の連及久ぶ土ら屋者宿の を理「健26日。り携課島こ料れ久を泊講。し義れな供り「ユ学、の。組実がの推、み習郷下進か。まに土、員ご。講たの心れ域にだ加見。座い意がたの加料者交

すて会林にてや食て係内 た座土で間。のの普屋学郷べ、業のこ。一料、保11月。なり有出いのをいメ、で食。取調15指食日。り携課島こ料れ久を泊講。し義れな供り「ユ学、の。組実がの推、み習郷下進か。まに土、員ご。講たの心れ域にだ加見。座い意がたの加料者交

た。にの者の“当。の連及久ぶ土ら屋者宿の を理「健26日。り携課島こ料れ久を泊講。し義れな供り「ユ学、の。組実がの推、み習郷下進か。まに土、員ご。講たの心れ域にだ加見。座い意がたの加料者交

郷土料理伝承講座

～職員が、それぞれの想う「屋久島」を語るコーナー～
連載【屋久島を想う】⑤⑥



『屋久島との関わりと単身赴任生活』①

村センター勤務：川内 誠

屋久島と関わるようになって12年である。早いものである。特に関わったのは、県の離島振興課(2回)と東京事務所での勤務の時である。忘れられない思い出をいくつか綴ってみたいと思う。

最初の離島振興課(平成9年4月～12年3月)では、何といっても「屋久島会議」で苦労した。県議会の有志がその会を設立し、上屋久町、屋久町からは町長や議長、議員や町職員が参加して屋久島について議論するのだが、実際は事前に両町から提出される県への要望と回答でほとんどが終始する。議長は知事である。

会議の立ち上げから議題の調整に関わった。忘れられない要望が、「交付税に替わる自然遺産地域ならではの行政経費に対する財政支援を求める件」に閉口した。世界自然遺産になっていると行政経費に金がかかるので、地方交付税に加算するか別に財源を確保してくれというのである。この要望はわからないではないが、県には担当する部署がないのである。地方課に持っていくと国に言ってくれである。新米係長の自分には大き過ぎるテーマであった。

つづく

屋久島環境文化村中核施設施設 休館日のお知らせ ほか

【文化村センター・研修センター共通】

12/7(月), 14(月), 21(月), 28(月)～31(木)
1/1(金), 4(月), 12(火), 18(月), 25(月)

【研修センターのみ(休館)】

1/2(土), 3(日)

自然体験セミナー～屋久島物語～やくしまの恵み

開催日：2月19日(金)～21日(日)2泊3日

活動内容：タンカンの収穫体験ほか

参加費：19,800円

※ 詳しくは、研修センター(Tel.46-2900)まで。

※ この他のイベントについては、表面をご覧ください。

今月のおすすめBook

本のタイトル：モモ

ミヒヤエル・エンデ(著)/大島かおり(訳)

出版社：岩波書店/頁数：409頁



「時間がない」「暇がない」という言葉を私たちは毎日聞き、自分でも口にします。忙しいのは大人ばかりではありません。子どもたちまでそうなのです。人間の心の内の時間、人間が人間らしく生きることを可能にする時間、そういう時間が私たちからだんだんと失われてきています。

人間に「生きること」の本当の意味を再び悟らせるそんな一冊です。

※ この本は、村センター・研修センターで閲覧できます。(貸出はできません。)